

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 15-001

PDCA	事務事業名	地域福祉推進事業	部課等名	福祉部 地域福祉課 地域福祉担当	担当	内藤誠	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第2章 子育てと暮らしを地域で支え合うまち					
		節： 第2節 地域福祉の推進					
		基本施策： 1. 地域福祉					
		単位施策： (1) 地域での福祉支援体制の整備					
	根拠法令等	社会福祉法					
対象・目的	半田市地域福祉計画に基づき、地域における住民同士の助け合いを中心とし、地域住民と社会福祉協議会、行政、関係機関等が協力して、地域課題の解決を図る。						
目的を達成するための手段・活動内容	地域住民、行政、社会福祉協議会、関係機関等がそれぞれの役割を担い地域福祉の推進を図るため、ふくし井戸端会議、にじいろサポーター養成講座などを協働により取り組む。 また、平成24年度から組織化が始まった地域住民による助け合い組織についても、地域福祉の推進の社会資源となるため、組織化に向けた意識付けや、助言等の支援を行う。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		28年度	29年度	30年度	単位
		①ふくし井戸端会議開催単位数		7	9	12	か所
		②にじいろサポーター養成講座開催数		2	3	2	回
		③庁内調整会議の開催(地域福祉計画見直し)		12	10	4	回
		事業費	198	82	169	千円	
		人件費	6,353	5,711	7,183	千円	
		総事業費	6,551	5,793	7,352	千円	
	活動単位当たりのコスト		28年度	29年度	30年度	単位	
	①地域福祉活動地区単位あたりのコスト		936	644	612	千円	
	②						
	③						
	成果	成果指標		28年度	29年度	30年度	単位
		①ふくし井戸端会議参加者数	実績値	795	732	951	人
目標値			600	700	800		
②にじいろサポーター受講者数		実績値	19	31	38	人	
		目標値	40	40	30		
③地域住民による助け合い組織数		実績値	4	4	4	団体	
	目標値	5	5	5			
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減余地 ない			
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	※対象・手段の変更			
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 ー				
事業の評価・課題	<p style="text-align: center;">C</p> <p>地域福祉計画に基づく重点施策をさらに推進する必要がある。ふくし井戸端会議については参加者拡充及び住民に身近な地域での開催を目指し取り組んでおり、平成30年度までに亀崎・半田・成岩・青山地区において定期的に小学校区単位で開催することができた。にじいろサポーターについては地域サロンのスタッフを対象に養成講座を開催し、サロンをふくし相談窓口として機能させることができるよう取り組んだ。地域住民による助け合い組織については、全ての中学校区で組織化できるよう地域住民の皆さんと協議を進める必要がある。</p>						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進					
		ふくし井戸端会議については乙川地区でも小学校区単位で開催できるよう取り組むとともに、全体的に内容充実を図る。にじいろサポーターについては引き続き地域サロンのスタッフを対象に養成講座を開催し、サロンをふくし相談窓口として機能させることができるよう取り組む。地域住民による助け合い組織については、まだ組織のない地区の組織化を促進する。その他半田市地域福祉計画の重点施策を中心に事業展開するとともに、次期計画の策定に向けて関係機関と協議を進める。					
	令和元年度の目標	成果指標		目標値	単位		
		①ふくし井戸端会議参加者数		900	人		
②にじいろサポーター受講者数			40	人			
③地域住民による助け合い組織数		5	団体				